

ご意見一覧及び回答

①令和2年度及び令和3年度の施策や事業についてももう少し詳しく知りたいことについて

No	事業内容	ご意見	回答
1	18, 19, 37 ページ 3 (2) 医療と介護の連携強化	医療と連携した介護の現状について、「進捗管理報告書」では具体的な記述が不十分ではないかと思われま。コロナ禍の中で、医療ともきちんと繋がった在宅の認知症高齢者へのサポートの仕組み、重度の要介護高齢者を支える仕組み、家族介護者を支える仕組みが十分に機能できたのか、どのような課題があったのか、具体的な実情報告ができるでしょうか。	事業の実情及び課題については、複数の案件を個別案件ごとに取り上げて報告することが難しいため、各事業ごとに全体を総括した表記にさせていただきます。
2	20 ページ 3 (4) ①b 近隣市と連携した多摩南部成年後見センターの共同運営	「5市それぞれ多摩南部成年後見センター（以下「センター」といいます。）の利用方法が異なるため、5市の実情に応じたセンターのあり方を検討していく」とありますが、もう少し詳しくお教えてください。	センターを構成する5市は、狛江市のほか、調布市、日野市、多摩市及び稲城市となります。 センターで行っている業務は、法人後見業務と市民後見人の養成及びその監督です。センターはこれらの業務による収入と構成市の負担金により運営されています。 市には成年後見制度その他権利擁護支援を行っている関係機関として社会福祉協議会、地域包括支援センター等がございます。もっとも、構成市の社会福祉協議会の中には成年後見人候補者の受任調整を行っていない市や地域包括支援

			<p>センターでこの受任調整を積極的に行っている市もごございます。また、成年後見人等の報酬助成の内容及び予算額も異なります。また、成年後見人等候補者の受任調整の方法も異なります。</p> <p>その結果、センターの法人後見、市民後見を積極的に利用している構成市や他に成年後見人等候補者がいない場合のみ利用する構成市が存在します。</p> <p>狛江市は後者であり、構成市の利用状況に応じた公平な負担金の在り方を検討しております。今後のセンターの在り方についても検討する予定です。</p>
3	20 ページ 3 (5) ④b 介護サービス事業への指導検査の実施	「令和2年度に指導検査を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった」とありますが令和3年度の実施状況はいかがでしょうか？	<p>上半期については未実施です。</p> <p>下半期については実施に向けて調整中です。</p>
4	24 ページ 1 (1) ③b 介護予防事業の整理・充実	「委員会からの意見」にあるように、このコロナ禍では東日本大震災の時の「繋がろう」が「離れよう（ソーシャルディスタンス）、集まるな」に変わっていき、高齢者をはじめとして生活上の支援を必要とする地域住民の「ひきこもり・孤立・孤独」の問題、経済的な困難の問題、「心の健康面」の問題などが一層深刻になってきて	<p>コロナ禍において、全ての現状を把握することは難しいため、「人材確保のための調査・研究」により収集した情報も含め、現状把握に努めていく必要があると考えます。また、コロナ禍における介護予防対策については、オンライン等の新しい手法を用いて、高齢者をはじめとした支援の充実を図りたいと考えております。</p>

		いると思われます。そうした現状・ニーズの把握は、昨年度・今年度に行われたのか、その実施状況をさらに詳しく明らかにできるでしょうか。	
5	26 ページ 1 (2) ③a こまえくぼ 1234 による専門相談及び体験学習プログラム等による人材・団体の掘り起こし・育成	委員会からの意見に「コミュニティ FM は、新しい情報提供の媒体であるとともに、地域住民や関係者が参加し協働する取組みだと思うので、今後の展開に期待したい。」とあるが、コミュニティ FM の現状と活用について、情報提供が必要であると感じました。	必要な情報は事務局から依頼があればその都度、提供していきたいと考えております。 【参考：現状と活用】 コマラジの番組「KOMAE AM フライデー アートサーカス」(毎週金曜日) 内で、市民活動団体等の紹介をしています。原則、第二金曜日はこまえくぼ 1234 職員によるイベントや活動支援情報等の紹介、その他の週はこまえくぼ 1234 登録団体の出演による団体紹介を行っています。
6	30 ページ 人材確保のための調査・研究	「訪問型・通所型サービスの担い手確保」に限らず、介護・介護予防現場の担い手の養成と確保、ボランティアの確保は深刻な問題であるだろうと思います。狛江市内のその実態について、具体的な状況が示せるでしょうか。	具体的な状況把握も含め、調査・研究を進めて行きたいと考えております。
7	35 ページ 3 (1) 新しい地域包括支援体制の構築	地域ケア会議の変更と実施状況について情報提供が必要であると感じました。	引き続き、関係者への情報提供と周知を徹底していきたいと考えております。
8	37 ページ 3 (2) 医療と介護の連携強化	後方支援病床の確保について意見交換が必要であると感じました。	医療と介護の連携推進小委員会にて協議して行きたいと考えております。

	について		
9	37 ページ 3 (3) 認知症の人とその家族が安心して暮らせる地域づくり	委員会からの意見に「認知症の3文字が付くことを避けた方が当事者、参加者の抵抗感を生まないとする。案内文、市公式ホームページ表記の工夫、配慮も必要かと思う」とありますが、認知症支援関連の事業名称について、説明や修正があれば報告をお願いします。	極力、最低限の表記に留めるよう配慮しておりますが、他の事業との識別が難しいため、「もの忘れ」等、別の呼称を使用しているものもあります。何より、認知症に対する偏見を無くすことが最重要と考え、今後も認知症普及啓発等の取り組みを継続的に行って参ります。
10	38 ページ 3(4)①b 近隣市と連携した多摩南部成年後見センターの共同運営	多摩南部成年後見センターの利用状況について、情報提供が必要であると感じました。	狛江市における令和2年度の後見等審判の申立件数は、後見17件、保佐10件、補助4件、任意後見監督人選任1件で、その内後見1件、保佐1件がセンターの法人後見を利用したものとなります。この2件を含め、センターの法人後見を利用している件数は令和3年11月1日現在13件となります。
11	全般について	新型コロナウイルス感染症の感染予防対策により、令和2年度及び令和3年度に計画された活動やイベントは中止、縮小等が余儀なくされましたが、全般的な事業計画が滞った事による地域福祉への影響がいかなるものであったかについて何らかの検証を行う必要があるものと考えます。	令和4年度に狛江市第5次地域福祉計画の策定に向けた市民意識調査を行う予定です。この調査の中で新型コロナウイルス感染症に伴う地域福祉への影響を調査するとともに、その調査結果を踏まえ検証を行い、課題を抽出し、新たな地域福祉の方向性・在り方を新たな計画の施策に反映する予定です。

②令和4年度以降の施策や事業の方向性について

No	事業内容	ご意見	回答
1	30 ページ 2(3)①a 人材確保のための調査・研究	介護予防や要介護者支援・家族支援を担える人材の養成・確保のためには、単に現状の施策の延長ではなく、財政的な支援も含めた思い切った施策を実施し、有能な人材を市内に確保して市民に安心して粕江市に住み続けてもらえるアイデアを提案することが欠かせないのではないのでしょうか。	ご意見として賜ります。

③ご意見のご紹介

No	事業内容	ご意見
1	39 ページ 3(5)④c ケアプラン点検の実施について	委員会からの意見に「集中減算が適用される居宅介護支援事業所、又は集中割合が高い事業所に対して点検してはどうか」とありますが、集中減算の捉え方について意見交換が必要であると感じました。
2	全般について	新型コロナウイルス感染症の感染予防対策により、令和2年度及び令和3年度に計画された活動やイベントは中止、縮小等が余儀なくされましたが、以下の事項について何らかの検証を行う必要性があるものと考えます。 1. 全般的な事業計画が滞った事による、地域福祉への影響が如何なものであったか 2. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって生じた新たな問題の把握と対策の検討について (1. については、①-11で回答済)

		<p>コロナ渦がもたらす在宅介護への影響を考える</p> <p>第5波が漸く沈静化しつつある昨今ですが、専門家はリバウンドのリスク、第6波襲来への警鐘を鳴らしています。令和元年12月に始まったこのコロナ災害は、社会に多大な影響を及ぼし、数々の傷跡を残してきました。全国の医療機関では、コロナ病床確保のため一般病床患者の早期退院、入院制限を行いました。同時に、テレワーク在宅勤務の普及により、就労者や学生の在宅生活が増加して、結果的に家族介護による在宅療養高齢者が増える状況となりました。ところが、これが長期化したことで、疲弊を訴える家族が現れて、やむなく老人ホーム入所希望者が増えているようです。（狛江市内の特養は、医療ニーズのある人は受け入れていない）一方、在宅介護サービス側は、これまでより医療ニーズの高い利用者の対応を求められる傾向が強まり、しかしながら、直ぐに対応する体制を整えられないため、結局、収まり所の無い、行き場の無い高齢者と家族が取り残されてしまうのではないのでしょうか。つまり、経済的に余裕があって医療ニーズが低いケースは、有料老人ホームに走り、経済的な余裕が無く医療ニーズが高いケースでは、在宅を余儀なくされ不十分な療養生活を送らざるを得ない状況を生み出してしまふ、と考えられるのです。</p> <p>この事は、地域として、早々に実態把握と対策検討に動き出すべきでしょう。コロナ病床確保や治療体制強化は、政府も重点的に行うと言っていますが、コロナ以外の一般病床、療養施設については、何の動きも無いようです。特養の医療ニーズ対応策は進んだのでしょうか。有料老人ホームの医療サービス体制は充実化するのでしょうか。在宅の医療サービス資源は充実されるのでしょうか。誰かが解決策を検討してくれているのでしょうか。大事な事は、このようなコロナ渦によってもたらされた在宅介護への影響を、しっかり検証して地域社会の課題と捉える取組を急ぐ事です。そうしなければ、仮に、この先コロナ収束を迎えても、更に大きな傷跡を残す、といった事態を憂う気持ちになります。</p>
--	--	---

3	<p>★提案</p> <p>2025年（令和7年）に、狛江市介護保険事業施行25周年記念事業を開催する。</p> <p>令和4年から令和6年を、その準備期間とする。</p>	<p>★意義</p> <p>2025年は団塊世代が75歳（後期高齢期）を迎えるエポックポイントで、地域包括ケアシステム構築の目標年です。狛江市が2000年4月より開始した介護保険事業が25年経過の節目として、その歩みを振り返り記録とすることで、2040年へ向かう新たなステップを明確にし、その流れの勢いを加速させるエポックメイキングとする。</p> <p>★企画内容例</p> <p>介護保険事業史の編纂、市民や関係者の思い出、苦労話を編集、シンポジウム「持続する介護福祉の明日は」、医療介護事業者の集い、ets</p> <p>★主催者及び実行者</p> <p>狛江市が中心的に進めるか、公募による実行部隊を編成するか等、協議するのは如何か。</p>
---	--	---